

シンポジスト 木原 暁子 (マイクロソフト社；中途視覚障害)

【コメント】

私は2003年まで見えていた中途視覚障害者です。体調不良と手術がきっかけとなり全盲となりました。目の手術は左右合わせて4回受けてきましたが、どの手術も不安と緊張が大きかったです。左目の手術直後は麻酔と緊張の影響で、飲み物を飲んでも嘔吐してしまったほどです。

視力を保持したいという希望の気持ちと、失明してしまうかもしれないという不安から直前まで悩んだ右目手術は、網膜剥離予防と白内障改善のためと聞いていましたが、改善には及ばずその後の私に大きな影響を与えました。

眼科治療は多かれ少なかれ人生を変動させるものだと思います。その眼科治療が人生に大きく影響するならば、その後人生をenjoyできるものが技術の進歩で開発されることを願っています。

また患者の失明と同時に離れてしまいがちな医師にこそ、その後も人生を歩む私たち患者には情報（訓練施設や最新治療など）というtriggerを与えてほしいと思います。

【略歴】

1980年	11月	若年性（1型）糖尿病発症
1999年	9月	派遣会社入社
2003年	2月	右目手術にて全盲となる
	5月	退院後障害手帳取得、生活訓練受講
2003年	12月	左足裏大やけどにより入院（8か月間）
2005年	8月	退院後再度生活訓練受講
2006年	7月	マイクロソフト株式会社入社～現在に至る